

# コーパスツールを用いた継続的なライティング活動 —効果的な活用を目指して—

板井 芳江・寺嶋 弘道 (立命館アジア太平洋大学)

## 1. はじめに

ライティングにおけるコーパスツール  
活用が期待されているが、実践に関する報告はあまり見られない

## 2. 先行研究

▶コーパスツールワークショップ (寺嶋・板井 2021)

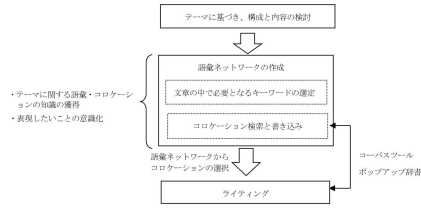
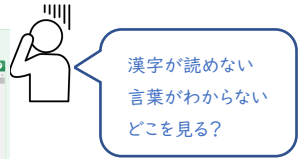


図1 ライティングにおけるコーパスツール活用モデル



学習者にとって  
使い方が難しい...

### 課題

- ▶語彙ネットワークと作文の関連性が低い学習者
- 作文の前に語彙ネットワークを活かした短文作成のプロセスを加える提案
- ▶コーパスツールの継続的な使用の検証が必要

### 研究目的

寺嶋・板井 (2021) の方法に改善を加え、学習者が継続的に  
ツールを使用することで、どのような変化が起きるかを考察

## 3. 調査概要

▶対象者：2020年7月のコーパスツールワークショップの参加者で、  
効果的に作文にコロケーションを取り入れられなかった  
中級修了レベルの学習者3名

(JL1：韓国、JL2：フィリピン、JL3：ベトナム)

▶実施期間：2020年10月～11月

▶内容：以下①～⑤の活動に3回参加 (オンラインで実施)

- ①テーマについてのアイデアの共有 (15分)
- ②アウトラインの作成 (10分)
- ③語彙ネットワークの作成 (30分) …録画
- ④語彙ネットワークに基づいた短文作成 (15分)
- ⑤作文の作成 (30分) …録画

▶コーパスツール：NINJAL-LWP for TWC (以下NLT)

▶ポップアップ辞書 (Chrome用アプリ)：rikaikun

## 4. 結果と考察

### 4.1 コーパスツールの使用回数



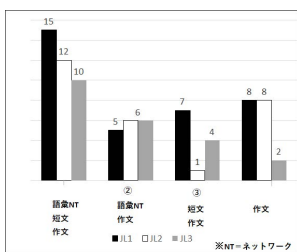
コーパスツールの使用数

- ▶3名とも活動で作文の文字数、作文への使用数が増加傾向
- ▶活動終了後の学習者の振り返りで「検索への慣れ」についての言及  
→繰り返しの使用による効果

### 4.2 NLTの使用パターン

▶作文で使用されたコロケーション・・・4つのパターン

▶多様なパターンでNLTが使用  
→作文への使用数の増加、短文作成が作文に活かされた



3名のNLTの使用パターン

〈語彙ネットワーク〉		
前につながら言葉	使いたい言葉	後ろにつながら言葉
簡潔な	問題	後ろにつながら言葉
良い	空気	気持
	役割	を分担する
	部下	適切な役割分担に協力のあ
	チャレンジ	を推進する
	失敗	に取り組む
	情報	を恐れる
	精神	を把握、を共有する
	仕事に	精神的に安定する、精神的な効果
		込む

- 〈短文〉
1. 悪いリーダーは問題が発生するとき、ポジティブな空気を作って、部下を精神的に安定させます
  2. 悪いリーダーは部下を指導力があるだけでなく、部下の能力を理解力でもある
  3. 部下の意見や情報を提供することもある
  4. すばらしいリーダーが適切に役割を分担して、協力があるので、チームワークが上手にできる
  5. 部下の特徴や長所をよ理解して、効果的な役割分担ができる。

〈作文〉  
学校や会社でグループワークがあって、リーダーがいると思う。だが、仕事のクオリティはリーダーによって違うので、いいリーダーが重要だ、いいリーダーの特徴があるが、3つの特徴はないからまず、一流リーダーは役割がよい人だと思う。僕らはこのあんなリーダーを信じているので、問題が発生するとき、皆さんはちゃんとリーダーについて行く。二つの特徴はコミュニケーションスキルだ。コミュニケーションスキルがあれば、リーダーはポジティブな空気を作って、適切な役割分担をしてくれる。部下の意見や情報を提供すること。仮に、悪いリーダーの大切な特徴は役割分担ができていない特徴だと思う。なぜなら、効果的な役割分担をするために、リーダーは部下の特徴や長所をよく理解しなければならない。

JL3の2回目のライティング活動

## 5. 課題

▶作文での誤用

- 種類：混同、脱落、誤形成、位置
- 原因：用例の長さ、用例の未確認、文法力など

① NLT を用いて取り入れた実質語のコロケーション、  
あるいはコロケーションと共に使用された文法項目が原因で誤用  
(JL1:2, JL2:11, JL3=3)

例) 技術を発展する (混同)

②コロケーションが使用された節において誤用

(JL1:5, JL2:6, JL3=3)

例) 人口が増えると、労働者や消費者が増えてきた。(混同)

\* 下線は NLT に入力した言葉

▶短文作成時の誤用がそのまま作文に使われるケース、作成した短文  
を作文に貼付けたことで、構成や内容面で問題が起きるケース

▶引き続き、上記の問題をどのように改善できるか検討していきたい

【付記】  
本研究は JSPS 科研費(18K00701「コーパスツールユーザーを育成するための教材開発とその検証」)の助成を受けたものである。

【使用ツール】  
筑波大学・国立国語研究所・Lago 言語研究所『NINJAL-LWP for TWC』<https://tsukubawebcorpus.jp>  
Erek Speed『rikaikun』<https://chrome.google.com/webstore/detail/rikaikun/jipdnfihldikgqjhfnomkfcpebamhhp?hl=ja>  
Google『Google 翻訳』<https://chrome.google.com/webstore/detail/googletranslate/aapbdbdmjklkaonfhkkikfgjllcleb?hl=ja>

【引用文献】  
寺嶋弘道・板井芳江 (2021)「ライティング力の向上を目指したコーパスツールワークショップの試みとその考察」『APU 言語研究論叢』Vol.6, pp. 49-65